

Vol.34 「肝臓病の変遷」

1989年、非A型非B型肝炎の患者からC型肝炎ウイルスが発見されました。当時は肝炎の主たる原因であるウイルスとの戦いが、肝臓病治療

の中心であったと思います。抗ウイルス剤として当初はインターフェロンが導入され、それなりの効果は出たものの十分ではなく、その後B型やC型肝炎ウイルスに関する種々の抗ウイルス薬が開発されてきました。

慢性肝炎が進行すると肝硬変になり、最後は肝がんを発症して命を失うことになるため、どうやって慢性肝炎を治すか、どうやって慢性肝炎から肝硬変に進展するのを防ぐか、そしてどうやってがんの発生を抑えるか、さらに、いかにしてがんを早期発見して治療するかが、肝臓病診療の中心でした。

一方、C型肝炎ウイルスは治療で完全にウイルスを排除できるようになり、発がんの予防効果も明確に示されています（ウイルス排除後も発がんリスクは残ります）。

現在B型肝炎については、ウイルスの増殖抑制は可能になりましたが、ウイルス自身を完全に排除できないため、発がんリスクを完全には抑止できません。しかし抗ウイルス治療は、肝硬変への移行などの予防には大きな効果を示しています。

生活習慣が原因に国は2008年、肝炎ウイルスの感染拡大防止と感染者に適切な医療を提供するため「肝炎対策基本法」を制定しています。それに沿って、今まで肝炎ウイルス（B型、C型）の検査を受けたことのない人は無料、あるいは割引費用（自治体により異なる）で検査が受けられるようになっていきます。

また、ウイルス性肝炎の治療は高額かつ長期になるため、治療費の助成制度（自己負担の限度は月額一万円、高位所得者は二万円）も制定されています。

以上のように、以前の肝硬変・肝がんはウイルス性肝炎を基礎疾患として発生するものがほとんどでしたが、ここ一〇年でその背景疾患は大きく

く変貌し、現在は非ウイルス性疾患の肝硬変が約三分の二を占めています。非ウイルス性の内訳はアルコール性が25—30%、非アルコール性の脂肪肝炎が9—10%と、大きなウェイトを占めています。

国内と海外で肝臓病に関する注目すべき声明が二つ出され、考え方が大きく変わりました。国内のものは日本肝臓学会総会で出され、「奈良宣言2023」と呼ばれます。もう一つは「非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）」の呼称変更に関する国際合意です。次回、その内容について詳しく説明します。

上記を踏まえて2023年、国内と海外で肝臓病に関する注目すべき声明が二つ出され、考え方が大きく変わりました。国内のものは日本肝臓学会総会で出され、「奈良宣言2023」と呼ばれます。もう一つは「非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）」の呼称変更に関する国際合意です。次回、その内容について詳しく説明します。

く変貌し、現在は非ウイルス性疾患の肝硬変が約三分の二を占めています。非ウイルス性の内訳はアルコール性が25—30%、非アルコール性の脂肪肝炎が9—10%と、大きなウェイトを占めています。



公益財団法人中国労働衛生協会
理事長

宮田 明

1974年岡山大学医学部卒。医学博士。公立学校共済組合中国中央病院血液内科部長・副院長、尾道市立市民病院院長などを経て2015年より現職。日本血液学会専門医指導医、日本禁煙学会認定専門医など。現在は健康診断、保健指導・健康教育、社会貢献事業などを行う公益財団法人の理事長。座右の銘は「待てば海路の日和あり」「降りやまない雨はない」。

定期健康診断・生活習慣病予防健診・人間ドック・特定健康診査・各種がん検診
地域初 **フレイル予防ドック** 始めました! あなたの会社の **健康経営** サポートします!



公益財団法人
中国労働衛生協会
福山市引野町5-14-2
☎084-941-8211
https://churou-wp.sub.jp

定年退職後の健康管理はどうしたらいいの?とお悩みの方

●健康診断のご案内 ●健康情報の発信 ●健康イベントのご案内

入会費無料 『げんきサポートクラブ』におまかせください!